



# 英語4技能に加え、 多様性のある人材を 育ててほしい

金沢大学 学長

**山崎光悦** やまざき こうえつ

金沢大学大学院工学研究科修士課程修了。金沢大学教授、理工研究域長・理工学域長、理事（研究・国際担当）／副学長等を経て、2014年度から現職。日本機械学会論文賞など数々の賞を受賞。

## 金沢大学

加賀藩の種痘所を源流とし、1949年に第四高等学校などを統合して発足。現在は3学域（16学類）、6研究科、1研究所を擁する総合大学。2014年に文部科学省から「スーパーグローバル大学（SGU）」の指定を受けた。

国立大学は現在、従来の金太郎あめ状態から大きく変化しようとしています。社会のグローバル化が急速に進む中、本学もリーダー的人材を輩出する大学として、世界で活躍できる人材を育てるために何が必要かを考えてきました。そして、地域の国際化に貢献したいという思いもあり、2014年度に人材育成方針「**金沢大学グローバルスタンダード（KUGS）**」を策定し、学生に重点的に育みたい能力を5つに整理しました。

その育成に向けては、30科目から成る全学共通教育科目「**GS科目**」を学士課程に設置しています。GS科目には、日本や地域の文化・歴史を学ぶ科目もあり、また学生の思考力・判断力・表現力を伸ばすために、学生同士の討論やプレゼンテーションなども積極的に行っています。

国際的な言語能力の育成も最重要課題と位置づけ、学士課程においては、2023年度までに授業の半数を英語で行うことを目指しています。そのために、2018年度入試からは、ほ

ぼ全学類でGTEC-CBT\*1など、英語4技能を測定できる外部検定試験のスコアを選抜資料に加えます。

また、教科学力に偏らず、多様な資質を持つ学生を受け入れる体制づくりも進めています。例えば、セミナーや実験・実習を通して、受験生の主体性や協働性を評価する「**KUGS特別入試**」を、2020年度入試から導入する予定です。近年、日本の製造業が海外に負けている背景には、多様性の欠如があると私は捉え

ています。多様性のある環境は、より多角的な検討を可能にし、研究水準の向上をもたらすでしょう。

初等中等教育でも、英語4技能の着実な育成とともに、民間との人材交流や外部人材の活用などを通して、子どもが異なる価値観に触れる機会を多くつくっていただきたいと思っています。それらを通じて、次期学習指導要領でうたわれている「社会に開かれた教育課程」を実現していただくよいのではないのでしょうか。

## 近未来への布石 KUGSとGS科目

GS科目では、KUGSの5つの能力に応じて30科目を設定。全学の1年生が、各テーマからそれぞれ3科目以上を選択して履修。ほか、実践的な英語力を身につけるGS言語科目もある。

KUGSの5つの能力(テーマ)		科目例
1	自己の立ち位置を知る	「現代世界への歴史学的アプローチ」 「グローバル時代の政治経済学」
2	自己を知り、自己を鍛える	「パーソナリティ心理学」 「グローバル時代の文学」
3	考え・価値観を表現する	「プレゼン・ディベート論（初学者ゼミⅡ）」 「芸術と自己表現」
4	世界とつながる	「金沢・能登と世界の地域文化」 「グローバル社会と地域の課題」
5	未来の課題に取り組む	「科学技術と科学方法論」 「統計学から未来を見る」

\* 大学資料を抜粋し、編集部で作成。

\*1 コンピュータを利用して英語4技能を多角的に測定する、ベネッセの個人向け英語力測定テスト。現在、一般入試を含む100以上の大学入試において、そのスコアが活用されている。